

※この連載では、政策ビジョン研究センターが現在最も重要視しているトピックスを中心に、そのときどきのホットニュースを、当センターの取り組みの様子、活動状況などと共に紹介していきます。

ラオス、タイ訪問調査 エネルギー効率化の ロードマップを

本年7月の東アジア首脳会議エネルギー大臣会合において、東アジア諸国におけるエネルギー効率化ロードマップ (Energy Efficiency Roadmap) に向けた合意がなされました。これを受けて当センターは「国際機関 東アジア・ASEAN 経済研究センター」とともに、ラオス、タイを対象としたエネルギー効率化ロードマップ策定プロジェクトを開始します。その事前調査として本プロジェクトメンバーは11月、ラオス(ビエンチャン)、タイ(バンコク)に赴き、ラオス国エネルギー・鉱物省やタイ国エネルギー資源、内閣官房、環境、交通の関係部局や、当地で再生可能エネルギーの普及を進めるNGOを訪問し聞き取り調査を実施しました。ラオスでは鉱業、輸送業、観光業の成長が目覚ましい一方で、生活向上のためのエネルギー供給体制の整備が待たれています。



電線がスパゲティ状に絡まっていて、送電効率を落としている。

現時点では、エネルギー効率化についてのマスタープランや法律は存在しませんが、産業、輸送業はもとより、家庭におけるエネルギー等も対象として検討されています。

エネルギー供給については、都市部や主要地域では国の基幹エネルギーである大型水力を中心に、発電施設の増設で対応していますが、アルミニウム産業の動向により需要が大きく左右される点が課題となっています。国境付近の遠隔地については、主にタイからの電力輸出入で対応しているほか、ベトナムや中国ともグリッドは連結しており、近隣諸国とのエネルギーの相互依存は深まっています。住宅では薪に代わるものとして新型の調理用ストーブが開発・導入されつつあり、家庭の照明やエアコンにおける省エネルギー化も少しずつ進んでいます。再生可能エネルギーの導入についての補助金制度も設けられているようでした。

タイでは運輸セクターが最もエネルギー消費量が多いこともあり、関連技術のロードマップを描くことが重要と思われます。この前提として、とりわけ都市部においては、交通渋滞の解消や信号機の整備、乱雑な配線となっている市内の電線の合理化など、新たな都市計画の必要性があります。



ラオスの新エネルギー関連企業へヒアリング。水力発電が主要なエネルギー供給源となっている。

公共交通としてバスを本格的に普及拡大することが必須であり、高速バスによる輸送 (bus rapid transit) の導入なども検討されてよいと考えられます。この点は、東南アジアの都市部に共通する課題といえます。

ラオス、タイ両国とも今後は大きなエネルギー需要が見込まれます。これまで先進国がとってきたエネルギー政策も、両国のエネルギー政策形成の参考になりますが、再生可能エネルギーや新しいシステムによってバイパス出来る技術もたくさんあります。産業政策との相互影響を考慮に入れ、低炭素と経済成長を共に実現するエネルギー効率化ロードマップが必要不可欠です。

プロジェクトメンバーは今回の現地調査を受けて、今後さらに本格的な調査を実施します。エネルギー効率化の定義と目標設定の様式を明らかにしながら、どのような技術や制度が促進されるのか、当センターの研究成果を活かして幅広く経済的、社会的影響のアセスメントを行い、ロードマップの策定に貢献していきます。

研究会開催報告

科学技術と社会の 関係深化に向けて

当センター技術ガバナンス研究ユニットでは、科学技術の現場ではどのような社会的課題を抱えているのかを分野横断的に把握し、科学技術に関わる多様な社会的価値とそのガバナンスのあり方について包括的な知見と視点を得ることを目的とし、「科学技術ガバナンス研究会」を開催してまいりました。

本年4月から7月にかけての第一期は、研究会を計13回開催し、各分野で活躍されている自然科学系研究者から意見を伺うとともに、政策研究者との議論を行いました。7月3日には

鈴木寛文部科学省副大臣をお招きし、これまでの議論を総括する公開講演会を開催しました。講演会では、科学技術ガバナンスの課題として、意思決定のあり方とテクノロジーアセスメントの役割、日本の科学技術戦略の方向性、そしてシステム構築や人材育成が挙げられました。これを受けたディスカッションでは、制度論に偏重せず、文科省のサイト「熟議カケアイ」や各種データの積極的な公開を通じてシステムからプロセスへと着眼点を移していく必要性、市民側のインフォーマルな公共圏をオープンな公共圏と連動させる可能性などが議論されました。

来年2月までの第二期は、幹細胞研究やレアアースなど話題性の高い科学技術を取り上げ、専門家を招いてのヒアリングを継続しています。

これまでに開かれた研究会一覧

【第一期】

- ① 4/21 坂井 修一/情報理工学系研究科教授
- ② 4/23 中須賀 真一/工学系研究科教授
- ③ 5/11 五神 真/理学系研究科教授
- ④ 5/14 片岡 一則/工学系研究科教授
- ⑤ 5/18 渋谷 健司/医学系研究科教授
- ⑥ 5/21 下山 勲/情報理工学系研究科教授
- ⑦ 5/24 柳瀬 唯夫/経済産業省産業再生課長
- ⑧ 5/25 豊島 聡/(独)医薬品医療機器総合機構 シニアアドバイザー
- ⑨ 5/31 山地 憲治/(財)地球環境産業技術研究機構 理事・研究所長
- ⑩ 6/7 唐木 英明/日本学術会議副会長
- ⑪ 6/10 薬師寺 泰蔵/(財)世界平和研究所
- ⑫ 6/11 木村 貴文、青井 貴之、川上 雅弘/京都大学IPS細胞研究所
- ⑬ 7/3 鈴木 寛/文部科学副大臣 ※公開講演会

【第二期】

- ⑭ 11/18 仙石 慎太郎/京都大学 iCeMS 准教授
- ⑮ 11/26 原田 幸明/物質・材料研究機構 元素戦略センター長

研究会の最新情報、参加方法はHPをご確認ください。